



「大竹市のことを多くの方に知ってもらいたい、好きになってもらいたい」という思いが込められたキャラクターが、市内をはじめ近隣の市町、遠くは青森県や関西方面から43点の応募がありました。

「まずは1次審査で10作品に絞り込み、広報紙で投票を呼びかけ、本庁や支所、総合

全国から応募あり

「大竹市が昭和29年に市制施行して60年を迎える平成26年、記念事業の一つとして職員から市のPRキャラクターを決めようという提案があり、キャラクターを公募してコンテストをすることになりました」。



市民会館、公民館に投票箱を設置。加えて「こいちゃん」の来場者にも投票をお願いし、投票総数4341票のうち、730票を集めた「こいちゃん」が選ばれました。Mさんは振り返ります。

こいちゃんの「ミニ」

晴れて『おおたけPRキャラクター』となった「こいちゃん」。広報おおたけをはじめ、さまざまな媒体などに登場し、基本形のデザインから次々と増殖し、今や約150種類ともいわれるバリエーション豊かなキャラクターに成長しました。現在は、広報おおたけ2ページの目次に、毎月新しい「こいちゃん」が登場していますので、「ちよつと気にかけてみてください」と広報担当が申しています。

そんな「こいちゃん」ですが、実はこんな秘密があることが



おおたけPRキャラクター
こいちゃんの謎

判明しました。なんと見た目は魚っぽいというか、鯉なのに泳げない！という衝撃の事実。それもそのはず、こいちゃんには生きものではなく、大竹手すき和紙でできた鯉のぼりだったのです。だから水には弱いというウィークポイントがありました。ん？でも、デザインの中には、泳いでいる姿やサーフィンをしている姿もあったりします。ひよつとして防水加工されているのか？まあ細かいことは置いておきましょう、という寛大な探検隊です。

70周年で新バージョン登場

バリエーション豊かな「こいちゃん」ですが、今年の9月に市制70周年を迎えるにあたり、新バージョンがラインナップに加わりました。古希を表わす紫色の帽子とマントをまとった「魔法使いこいちゃん」です。みんなを「笑顔・元気」にするイタズラ好きの魔法使いという設定で、さまざまなイベントや事業に魔法をかけて、70周年記念イベントに変えて盛り上げていくというものです。

そんな『70周年記念魔法使



市制70周年限定

問い合わせ
企画財政課 ☎59-2124

「こいちゃん」や、そのほかの豊富な「こいちゃん」のデザインは、企画財政課に申請すれば無料で使用（期限付き）できます。こいちゃんを使ってみたい方や、団体、事業所は、ぜひQRコードから市ホームページで申請方法をご覧ください。



折ってみようこいちゃん

こいちゃんの折り紙ができました。折り方は、市ホームページに掲載しています。申請方法や折り方はこちらのQRコードからご覧ください。

両面の表情が違うよ。



「キャラクターは使われてなんぼと言われています。大竹市の愛されキャラとなるためにも、こいちゃんをかわいがってください」と担当者も申していました。